

住民の声

今回は、地域で頑張っている方たちの声をと、佐賀地区でEM（有用微生物群）による環境浄化活動に取り組んでいる「佐賀漁協女性部」の皆さんをお尋ねしました。

黒潮一番館などでのカツオ料理体験などで知られている「佐賀漁協女性部」ですが、同



壁には思いのこもった一枚が



EMで水路の浄化も



只今、ペットボトルに詰込み作業中です
(左手前の培養器で1度に340Lほどを培養)

女性部は、長年、深刻化する海の汚れに危機感を抱いていた。こうした中、同館が新設さ

れた平成15年当時にEMの存在を知り、佐賀の海を守りたい一心でその普及活動に取り組み、以後、EMでの水路の浄化や、より多くの住民への普及を目的として、EMの培養を行い、同館などで200円/2Lの格安での販売にも取り組んでいるとのこと。その10年余りにも及ぶ活動の成果か、佐賀港周辺の海藻が徐々にふえ始めているとのうれしい報告もあったとのこと。今後、この活動を続

け、豊かな海を守り続けたいと意気込んでいる「佐賀漁協女性部」の皆さんです。

♡EM担当の声♡

私たちは、合成洗剤などの環境に負担のかかるものを使い続けて来た結果からの反省をもとに、生活様式の見直しや、EMを活用して佐賀の海を守って行きたいと地道に頑張っています。

かつての海を取り戻すには時間がかかりますが、「みんなできりやあできらーね」です。皆さんも、是非、一緒にやりましょう。

◎お問合せは、佐賀漁協女性部

EM担当 明神 里寿 さん
〒789-1700 佐賀 763
☎ 0880-55-3338 まで



佐賀漁協女性部の活動拠点のひとつ「黒潮一番館」

編集後記

若葉が輝き、風かおる季節となり、町内の小学校にも大勢の新入生が入学されましたが、当町においても少子化による学校児童数の減少は著しく、先般も伊田小学校が、3月末をもって140年の歴史に一幕をおろし、4月からは上川口小学校へ統合となりました。

地域としては、まことにさびしい限りですが、保護者の皆さんを始めとする地域の方たちが、子どもたちの将来に向けてなされたご決断を尊重するばかりです。

こういった現実直面し、この流れに歯止めをかけ、少しずつでも賑わいを取り戻すべく、地域の皆さんと力を合わせて行かなければと、再認識させられた取材となりました。

広報委員一同

議会広報常任委員会

- 委員長 宮川 徳光
- 副委員長 藤本 岩義
- 委員 坂本 あや
- 同 員 下村 勝幸
- 同 員 宮地 葉子
- 同 員 森 治史